

自 平成25年4月 1日
至 平成26年3月31日

公益財団法人 ハーモニィセンター

平成25年度

事業報告書



公益財団法人ハーモニィセンター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター内

電 話 03-3469-7691

FAX 03-3469-7714

目 次

1. 概況	・・・	2
2. 子どもトレーニングキャンプの実施	・・・	3
長期キャンプ	・・・	4
短期キャンプ・受託キャンプ・日帰りキャンプ	・・・	5
3. ポニークラブ活動の推進及び啓蒙	・・・	6
イ) 蓼科ポニー牧場事業実施状況	・・・	6
ロ) 相馬ポニー牧場事業実施状況	・・・	7
ハ) 小貝川ポニー牧場事業実施状況	・・・	8
4. 子供動物広場事業の実施・運営	・・・	10
イ) 目黒区碑文谷公園こども動物広場事業実施状況	・・・	10
ロ) 葛飾区水元中央公園子ども動物広場事業実施状況	・・・	10
ハ) 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場事業実施状況	・・・	12
ニ) 万騎が原ちびっこ動物園事業実施状況	・・・	13
ホ) 板橋区こども動物園本園、高島平分園、昆虫公園事業実施状況	・・・	13
ヘ) 上千葉砂原公園ふれあい動物広場業実施状況	・・・	14
ト) 海老名ふれあい動物施設事業実施状況	・・・	14
5. 青少年の国際交流の実施	・・・	16
イ) プロジェクトM	・・・	16
ロ) 日独青少年相互交流計画2013	・・・	17
6. 青少年指導者の育成	・・・	18
7. 機関紙および資料等の発行	・・・	20
8. その他	・・・	20
会員制度		
会議		

1. 概況

平成25年4月1日に財団法人の解散並びに公益財団法人の設立登記をし、ハーモニィセンターの新たな年度が始まった。「公益財団法人になったら何がどう変わるのか」との疑問があったが、「会員対象の活動を行う」という一点を除いては、これまでの活動が公益財団法人にふさわしいものとして認定されたものであり、4月1日以降も各事業所、各事業の現場では、これまでと変わらず多くの子どもたちとポニーや他の小動物、カウンセラー・スタッフが作り出す賑やかな世界が繰り広げられている。

この会員制度については、公益財団法人認定の条件である「会員ではなくとも（ハーモニィセンターの主催事業に）参加できる」とした上で、賛助会員として子ども、若者、大人、高齢者、障がいの有無に関わらず、誰もが「馬と自然」に親しみ、幸せを実感できる新しい文化を創造する活動に参加し、支えていただくよう、新たにお問い合わせすることとした。この制度改正に加え、会員管理や参加費納入、事業への申込方法については外部専門家の手を借りながら、参加者、利用者の利便性を優先した仕組づくりを進めた。併せて、広報についても、ホームページ、機関紙（誌）刷新作業を進めた。

事業については、予算規模で7割を超え、今日のハーモニィセンターを支える大黒柱となっている動物広場事業で碑文谷、相模原の次の5年間の指定管理者としての指定を受けたことに加え、上千葉でも10月から3年間の契約更新があった。利用者数はほぼ横ばいだが、各広場の特性に合わせて組まれたプログラムへの参加状況は飽和状態に近いと見られ、更なる入場者、利用者数の追及よりも、より質を高める努力をすべきところだと考えられる。キャンプの参加者は2年連続で若干伸びた。ただし、過去の最高記録と比較すると、年間の参加者数はその50%程度であり、今後、週末キャンプ、野外キャンプの充実を図ると共に、相馬に代わる新たな拠点開発が急務である。

事業計画書のはしがきで示した10個の「重点項目」の執行状況については、以下の通り。

- ① 「軽乗」の普及：各事業所からの要望もあり、テキスト、指導マニュアルの作成に着手した。
- ② 「馬を活用した福祉、医療、教育活動」：9月に帯広畜産大学で開催された「ちくだい馬フォーラム」でポニースクールかつしかの子どもたちが軽乗演技を披露し、このことが26年度の帯広畜産大学への1年間職員派遣、帯広市での夏のポニーキャンプ実施につながり、国立大学との更なる連携の広がりが期待される。また、この動きには対高齢者関連企業・行政の応援をいただいております、こうした意味でも大事に育ててゆきたい事業である。
- ③ 「河川パトロール」：7月に利根川下流河川事務所と交わした覚書、「利根川・小貝川（利根川下流河川事務所管理区間）の堤防における騎馬合同巡視の試行に関わる覚書」を基に11月に1回目の試行を行い、3月には新たに創設された制度である河川協力団体の指定を受けた。
- ④ 産学協同研究：11月に開催されたNPO法人日本治療的乗馬協会主催の学習会に職員を3名参加し、発表者並びにワークショップの座長を務めた。
- ⑤ 職員の研修：後述の通り。乗馬の世界でも自然体験の世界でも年々安全管理に関する関心が高まっており、新たな仕組であるリスクマネージャーに4名が認定された。
- ⑥ 蓼科、相馬両牧場について。蓼科については施設補修の第一歩として4月に馬場改修を行った。新年度は宿泊施設の整備に取り掛かる。相馬については今年度も東北支援活動の拠点、動物保護団体の基地としての活用を継続したことに加え、放射能除染後の除染物質の一時集積所の提供や、地域の障害者支援団体の職員住宅・授産施設としての活用の依頼に応え、一部を開始するなど、被災地にある事業所ならではの復興支援を進めた。

2. 子どもトレーニングキャンプの実施

1. 目的

子ども達に自らの内に宿る力に気付き、磨きをかけ、発展を遂げていってもらうための活動を推進する。

これらは、子ども時代の、豊かな自然や優れた人々と出会い深くふれあう体験と密接につながっており、まさに「生きる力」の源泉となり、「成人として仕事ができ、社会人としてきちんと責任を果たし、世の中で生き延びてゆける」基礎を育んでいこうとするもの。

2. 方針

- ・未知のものや初めてのことから逃げずに、上手くいかないことの難しさ、楽しさを学ばせる。
- ・勤勉に努力し、その壁を乗り越えた後に真の楽しさがあることに気づかせる。
- ・体を鍛え、体力、技術を身に付けさせる。
- ・いざという時の「力を出し切る」とはどういうことかを感じさせる。
- ・いろんな考えの仲間がいることに気付かせる。
- ・努力の方法を学ばせる。
- ・答えのない問題と出会い、地頭を鍛える。
- ・不便な環境にも順応できる力を付ける。
- ・人の役に立つことがどんなに楽しいことか学ばせる。

以上の方針に則り、ポニーとカウンセラーの手助けを借り、子どもの健全な成長を育んでゆくものとした。

3. 計画との差異とその要因

- ・ 夏キャンプ等に多くの初参加者を確保できたが、反面内容的には画一的なものになっている。
今後、小笠原、八ヶ岳のように、より子ども達の力を引き出すためにも特化したプログラムのキャンプを計画する、ポニーキャンプも特色を出したプログラムを実施することで個性を出してゆきたい。そのためには引率スタッフ、カウンセラーの更なるスキルアップ、経験値アップが求められる。キャンプ実施と並行して個々のスキルアップや見識を深めるために様々な場に出かける機会を設けてゆきたい。
- ・ 夏にキャンセル待ちが多数あったため、急遽1コース追加キャンプを実施した。(36名参加)
- ・ 夏から冬にかけて実施したキャンプでは参加者が前年度比60パーセント(170名から270名へ)アップした。夏の参加者にDMで呼びかけた効果が出たものと考えられる。

4. 課題、将来展望

- ・ 「蓼科ポニーキャンプは昨年比22%アップと参加者は大幅に増やしているが、野外キャンプは全体で昨年比5%増にとどまった。野外キャンプの充実、担当引率スタッフのスキルアップを図りたい。
- ・ 蓼科ポニーキャンプは夏春冬はほぼ定員に達しているため、週末キャンプの企画・実施に力を要れ、参加者増を図る。
- ・ 新規キャンプの開拓。

5. 事業結果

○長期キャンプ

	キャンプ名	回	泊	参加者	カウンセラー	Jrカウンセラー	内 容
①	蓼科ポニー	16	44	685	198	18	夏の長期キャンプでキャンセル待ちの希望者の為に、キャンプを急きょ1コース追加した。また各キャンプ毎のプログラムとして釣り、軽登山、ポニー乗馬検定、野外料理作り等のプログラムを組み入れ、初参加者の参加を促した。(夏参加者398名中136名が初参加者)
②	相馬ポニー	0	0	0	0	0	福島原発から30数km圏ということもあり、キャンプ実施を見送る。
③	下郷ポニー	2	6	48	12	1	主に仙台圏の相馬キャンプ参加会員向けに、放射線量の低い会津に拠点を移し、ポニーを搬入して行う「東北支援」キャンプ。仙台圏の参加者が多く、リピート率の高いキャンプ。
④	小笠原父島	1	5	25	6	1	現地役場、教育委員会の協力を得た地元の子ども達との交流を実施している。(25名中、島の子ども参加が10名)
⑤	八ヶ岳登山	1	3	15	3	1	天候に恵まれ無事硫黄岳、横岳、赤岳の三山を縦走。安全面を考慮し山岳ガイドが同行。今年はロープワーク講習会や、オリジナルストラップ作りも実施した。
⑥	南志賀スキー	2	9	65	13	0	長年ハーモニィセンターの理解者であるロッジカナディアンをベースに、スキー学校インストラクターの指導を受けSAJ公認のスキー検定合格を目指してキャンプを実施した。
⑦	河口湖スケート	1	3	21	6	2	固定ファンから支持を受けている反面、同じ顔ぶれが多く、長年参加者の伸び悩みが続いている。

○短期キャンプ

	キャンプ名	回	泊	参加者	カウンセラー	Jrカウンセラー	内 容
①	蓼科ポニー	7	12	166	37	2	長期キャンプへの参加を検討している子のお試しキャンプとして実施。昨年度よりも参加者数を増やし、長期にもつなげることができた。(長期に64名参加)
②	奥秩父野外	1	2	15	5	0	奥秩父にある中津溪谷キャンプ場にて実施。火おこしのスキルを学ぶことをテーマにした野外キャンプ。秩父御岳山の登山も実施した。

③	河口湖 スケート	1	2	19	4	0	固定ファンから支持を受けている反面、同じ顔ぶれが多く、長年参加者の伸び悩みが続いている。
	ファミリー (蓼科)	8	13	191	61	0	ポニー乗馬に重点を置き、初めて参加する入門的役割を果たし、障害児にとり、「慣らし」的意味合いを持たせた親子キャンプ。職員、カウンセラーとの交流がその後の継続的参加の支えになっている。2泊のものは毎回キャンセル待ち。

○受託キャンプ

	キャンプ名	回	泊	参加者	カウンセラー	Jrカウンセラー	内 容
①	コープ (蓼科)	15	42	133	0	0	コープの会員向けの募集に応じた子どもを、ハーモニィが引き受け、合同で実施するもの。次第に年間を通しての募集の要望となってきた。
②	長岡っ子 (蓼科)	1	3	34	11	6	長岡市教育委員会の募集に応じた子どもが対象。乗馬、川遊び、工作などカウンセラーとの交流が評判良く、連続参加者が多い。(18名)今年には高校生ボランティアの講座として6名が参加した。
③	被災地児童 に贈る会	1	2	17	8	0	カウンセラーOBが中心となって「東日本震災被災地の子供達にキャンプを贈る会」を主催。南相馬の小学生を対象に小貝川ポニーキャンプに招待し、動物広場の子ども達との交流活動を行った。

○日帰りキャンプ

	キャンプ名	回	泊	参加者	カウンセラー	Jrカウンセラー	内 容
①	親子祭り (若洲海浜公園)	1	0	85	56	1	日帰りで会員家族とカウンセラーの交流を通して、キャンプの雰囲気を感じとってもらうことで、参加促進を図っていくもの。蓼科牧場とは異なった新たなプログラムの場となった。

3. ポニークラブ活動の推進及び啓蒙

イ) 蓼科ポニー牧場

1. 蓼科ジュニアポニークラブ (T J P C)

小1～中3が対象。高校生のボランティア参加可。月2回実施。年間を通した活動の大半に父兄が関わる。地元中心ではあるが、東京からの参加も数名あり。レベル・内容の維持、保護者一丸となつての活動であることを考慮すると、多くとも30名未満が望ましい。(現在24名)

回数	参加者数	行 事
24回	964 (保護者含む)	前後期保護者会(年間活動・各役員選任)、親子合宿(新潟能生海岸)、高ボッチ草競馬大会(JRA主催第5回全国子どもポニー競馬選手権長野地区予選)、十和田キャンプ(5名)、清里清泉寮ポールラッシュ草競馬大会、第12回長野ホースショー(競技出場者37名)、乗馬発表会、納会

2. 宿泊団体の牧場利用

自由学園5年生の宿泊型学習体験旅行以外は、週末受入れ。キャンプOB・カウンセラーOBなどのグループの他、動物広場のキャンプなど、部署独自の宿泊体験が増える。

主催事業と同時並行の受入れが実施できた背景には週末参加者数の減少がある。

回 数	参加者数
18	424

3. 日帰り団体の牧場利用

6割が県内の障がい児グループ。土日午前中利用希望が多く、その場合は主催事業と調整しながら受け入れている。乗馬なしでの見学利用の幼稚園、小学校は除外した。

回 数	騎乗者数
13	310

4. 乗馬会 全9回 参加者81人

大人の会員も個人で乗馬を楽しめる活動として、平成4年から実施。初心者を対象としていたが、10年前より乗馬技術の向上を目指し、上級指導者(外部講師)によるレッスンを開設。

初心者から経験者までがそれぞれに満足できる内容となった。近年参加者が固定化高齢化してきており、広年齢域に対応するプログラムの再構成が必要。

5. (出張) 移動乗馬教室

回 数	騎乗者数
10	4007

6. その他

- ① ワンパクポニー村(入場者数14,000人 利用者数6,346人 実施期間 5月連休・夏休み・9月連休)

観光客を対象に4年前に蓼科湖畔に開設した引き馬乗馬と小動物ふれあい体験のできる臨時ミニ牧場。蓼科湖周辺の自然を活かした活動施設として周辺イメージアップに繋がっている。

常設の仮設馬房ができ、その都度馬を牧場から搬出入する必要がなくなった。

- ② デイキャンプ(参加者30人)

三井の森別荘に滞在する子どもを対象に、1日ポニーキャンプに体験参加するもの。一昨年から試みが開始された。

③ レッスン・引き馬

会員			一般			オーナー（三井の森）		
レッスン	引馬	2人乗り	レッスン	引馬	2人乗り	レッスン	引馬	2人乗り
455	56	5	55	482	120	110	0	0

7. まとめ

週末の利用は、ほぼ飽和状態といえる。更なる活用となると、いかに平日の団体利用をとれるか？ということになる。これに関しては、スタッフ以外で平日に人手を確保することが求められる。会員になることでメリットがあるとするならば、多くの人が週末か長期の休暇に利用することを前提とするが、同時期に牧場がキャンプ等で活用されていることが大半であることから、容易ではないと考えられる。

ロ) 相馬ポニー牧場

1. 被災地・南相馬周辺の概況

相馬ポニー牧場は東日本大震災による被災、福島第一原子力発電所事故後の放射能災害の影響により、休業を続けている。被災した東北地方はそれぞれに災害の影響の違いにより、復興の進捗に違いが出てきている。

南相馬市においては、震災・津波・放射能災害を受けているが、平成の合併時の小高町、原町市、鹿島町がそれぞれ被害の大きさが違うことにより南相馬市全体の復興計画の進捗にバラツキが出ている。放射能除染後の除染物質の一時集積所(仮置き場)は行政区単位での設置が必要であるが、未設置地区もあり全体として進んでいない。

鹿島区(旧鹿島町)は、他地区に比較して放射線量が低いこともあり、今後の復興計画の基本に小高区からの移住者の受入れを置くなど、避難者の帰還に積極的に動いている。受け入れを進めるに当たり、支援から交流へとソフトの転換を図っている。

2. 相馬ポニー牧場の現状

- 南相馬市より、生活圏除染対象事業所としての除染を受ける。
平成25年10月24日開始、平成26年1月19日終了。
- 放射線量 0.57マイクロシーベルト(場内22箇所の平均値)
- 除染目標放射線量 0.23マイクロシーベルト
- 上柵窪行政区としては3月24日に終了。

3. 事業計画の進捗

平成25年度計画

- ① 地域と連携した生活圏除染活動については、上柵窪行政区の仮置き場として牧場を利用することによって、地域住民、利用者への安心を計ることにあった。
 - ・ 生活圏除染が25年10月から開始された。
 - ・ 上柵窪の人たちの除染後の動きは、夕方にグループで散歩をする女性たちの姿を連日見かけており、地域の人々の心理的な変化を感じる。
- ②ポニーを中心とした事業活動/東北支援事業 事務局職員、小貝川職員の応援による事業
 - 延べ38頭 カウンセラー延べ71名 職員35名
 - そのうち1泊2日を南相馬市からの避難者受入れをしている鶴岡市へ。
 - 山元町、亘理町(いずれも宮城県)での活動の中で、「支援から交流へ」の転換のテーマが生れ、定点活動のヒントにもなった。

東北支援活動事業「子供たちに笑顔を贈る事業」

回数	騎乗者数
12	3739

- ③ 施設の利活用 / 放射線量の問題は除染の進捗と重なり、積極的に利用、活用を進められる状態ではなかった。ただし、従来から利用している小動物の保護団体が引き続き利用を継続している。
- ④ 放射線量の低減後の利活用については、地域の障害者支援団体より、職員住宅・授産施設などへの提供の依頼を受け、一部を開始した。

4. 相馬ポニークラブ

相馬ポニー牧場の休業に伴い、公益社団法人全国乗馬クラブ振興協会より、ポニークラブの避難先として小貝川ポニー牧場を認めていただいた。

東北地区乗馬クラブとして、被災者支援プログラムへの協力も行った。

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会より、5月かみまの保育園、11月宮城県亘理いちごっこへの派遣事業が「平成25年度乗馬を通じた被災地支援(馬とのふれあい)事業」として認められ、補助金の交付を受けることができた。

ハ) 小貝川ポニー牧場

1. 概況

「キャンプを贈る会」主催キャンプの受け入れ、東北支援事業、国土交通省の河川協力団体認定を視野に入れての「河川パトロール」活動など、対外的な分野が加わった。

また、障害者の牧場利用が増えるにつれ、高齢化した馬で対応せざるを得ない問題が出てきた。さらに老朽化した馬房への対処も喫緊の課題。

① 乗馬関連

高齢者、障害者(子ども)の個人レッスンのニーズが高まり、個々の状態に合わせたプログラム内容が求められた。

② 水辺関連

新規・リピーター利用者獲得のため、DM発送、近隣の商店へのポスター貼り依頼等を実施。初心者向けのカヤック講座が定着してきた。川遊びプログラムは、河内町教育委員会の体験学習講座開催が2回から3回に増加。

自然観察会にEボートの利用が増え、講師派遣依頼が増えた。

② マウンテンバイク

小貝川生き生きクラブを起点にして、小貝川上流域、下流域、牛久沼周辺の3コースで自然観察会を兼ねた親子サイクリングを開催。天候に恵まれず1回の開催。

④ 生き生きクラブ管理運営

高齢者団体の新規固定利用者が増加した。また、公園を訪れた方が休憩や飲食に利用する機会も増えた。

⑤ 25年度事業計画の達成度

25年度は東北支援事業への職員及び乗馬の派遣並びにその他の「移動乗馬教室」実施依頼に重点的に対応した。その結果、移動乗馬教室における利用者数は伸びたものの、牧場における事業については利用者減となった。今後は牧場の主催事業と事業部業務のバランスの取り方を考慮した運営をすすめるべきと考える。また、川の事業に関しては提供するプログラムが固定化した感があり、参加者数の安定及び新規参加者の確保が次の課題である。

試行プログラムの「ランドヨット」に関しては、工作レベルから実用レベルに至る変遷をブログ上に公開し、年度内に有人走行テストを実施した。

小貝川生き生きクラブの管理運営に関しては取手市から与えられた命題である「取手市民・高齢者の利用増」を達成した。その理由として、健康麻雀実施グループの新規加入が2団体あったこと、グランドゴルフのグループの利用が増えたことがあげられる。

牧場に隣接する児童公園の利用が増えることで生き生きクラブの利用者が増えることにつながるため、今後も牧場業務との連携を強化する必要がある。

2. 事業結果 (過去3年分)

① 牧場並びに小貝川河川敷で実施したもの

	2011年	2012年	2013年
ポニー教室 (人)	1,703	1,228	563
引馬 (人)	407	324	503
団体利用	1,631	755	776
外乗	38	27	32
馬場レッスン	415	374	295
無料利用者	1,001	2,995	891
カウンセラー・ボランティア	177	148	151
他 牧場来場者	5,018	3,870	4,005
合計	10,390	9,721	7,216

	2011年		2012年		2013年	
カヤック教室	15回	120	15回	103	19回	90
マウンテンバイク教室	3回	7	3回	21	1回	16

② 移動乗馬教室/水辺の事業移動教室/移動動物園

高齢者施設、保育園、川の駅等でポニー乗馬、移動動物園、カヤックスクール等を実施した。

回数	騎乗者(等)数
10	2565

③ 東北支援事業

相馬ポニー牧場報告にある東北支援事業、キャンプ報告にある下郷キャンプには、小貝川ポニー牧場よりポニー、馬運車、期間中のポニー管理並びに乗馬に関する指導者を派遣した。(全6回)

④ 小貝川生き生きクラブ利用者

利用団体	人数(名)
福祉団体	500
子育て団体(未就学)	21
子供の団体(就学児)	1,833
高齢者団体	1,299
その他(ホール・トイレ利用)	6,286
合計	9,939

* 毎月の部屋利用予約はほぼ満室(使用料は無料)。利用者のうち高齢者団体が占める割合が増えたことは市の方針に沿った形になっている。

4. 子供動物広場事業の実施・運営

イ) 目黒区碑文谷公園こども動物広場

- 指定管理者として5年目の年。(来年度から5年間指定管理者として決定)
- 利用者数は、1月までは前年度を上回る勢いであったが、2・3月の天候不順(大雪・雨など)により、少々下回った。天候に左右される事業ではあるが、前年を意識していきたい。
- ポニー祭りを6月2日に開催し、6,612名が参加、過去最高の人出となった。
- 日本獣医生命科学大学のボランティアサークル(AKS)と協力し、2度蓼科で研修合宿を実施した。広場内でも定期的に研修会を行い、大学主催の移動乗馬教室も2回開催した。
更に、この研修を通して共に活動した学生が、26年4月に当団体の職員となった。
- 蓼科での宿泊研修(動物クラブ、ポニー教室参加者対象)を3回(5月、1月、3月)実施した。また、8月10日～12日には小貝川ポニー牧場で南相馬の子供たちとの交流キャンプを実施。8月6日～9日には十和田ポニーキャンプを実施した。十和田乗馬クラブの協力のもと、子どもたちが馬と共に生活できる空間を提供した。
- 指定管理者運営評価委員会による平成24年度の総括評価結果は80点(100点満点換算点)となり、「十分水準を超えている」と評価された。
- 平成25年度利用者アンケート(回答数265)においても、職員対応については95%が「良い」という回答をいただいたが、掲示物やパンフレットについて「見やすいという」回答が70%であったので、掲示物等については今後改善していく。

年度	ふれあい	引き馬	教室	団体	動物クラブ	職業体験	個人ボランティア	一般利用者	計(人)
23	55,940	19,392	5,608	4,594	913	102	1,401	30,703	118,653
24	61,810	22,163	5,574	4,897	889	151	1,400	38,382	135,226
25	61,335	20,963	4,728	4,523	1,098	122	1,275	39,298	133,342

ロ) 葛飾区水元中央公園子ども動物広場

帯広畜産大学との連携により、軽乗見本演技チーム初の北海道遠征を実施。普段から取り組んでいる軽乗演技披露は勿論、子ども達の表現力・体力作りの一環で始めたダンス、ダブルダッジの披露も行う。また乗馬教室終了後には、簡単なモンゴル語(夏季)・ドイツ語(冬季)講座を実施。日常の乗馬練習の先にある、「モンゴル遊牧民生活 ナーダム競馬体験」、「日独乗馬・軽乗交流」への参加実現に向けた一年となった。

① 軽乗出張演技披露

- 4月 「水元公園こどもまつり」：葛飾区主催*雨天中止
- 9月中旬 「ちくだい馬フォーラム2013」：国立大学法人 帯広畜産大学主催
- 9月下旬 「第14回ながおかポニーカーニバル」：新潟県長岡市主催
- 10月 「かつしかスポーツフェスティバル2013」：葛飾区主催

② 特別行事

- 5月 「新入生保護者懇談会」
- 6月 「区民誰でも乗馬会」
- 8月 「子どもまつり」
- 11月 「第21回 ポニー大運動会」 「少人数新入生保護者懇談会」(11/19～12/1)
- 12月 「クリスマス音楽会」 「第12回 皇居マラソン大会」
- 2月 「区民誰でも乗馬会」
- 3月 「ポニースクールかつしか 卒業式」

③ 特別活動

- 「介護予防シニア乗馬」：高齢者支援課より委託。葛飾区在住65歳以上の方が対象。毎月1回、3ヶ月単位で体操・乗馬練習を行う。(年3回実施)
- 「ふれあい明石」：葛飾区内の不登校児(小4～中3)が対象。体操・馬房掃除・乗馬練習・手入れを行う。(毎月1回 年7回実施)
- 道産子ふれあい体験：北海道和種馬保存協会からの依頼。災害時の道産子活用方法の説明、引き馬乗馬体験を行う。(11月実施)

④ 主な雑誌・新聞掲載、テレビ、ラジオ放送

- 雑誌・新聞掲載
 - 「葛飾本」(柵出版社)(2013.8.10発行)
 - 「東都よみうり」(2014.1.3掲載)
 - 「東京民報」(2014.1.3掲載)
- テレビ、ラジオ
 - 「デイリー・ニュース」(JCNコアラテレビ)(2014.1.10放送)
 - 「この人この町このお店」(FMかつしか)(2014.1.10放送)

⑤ 主な取材・視察・研修

- 研修
 - 東京都立水元特別支援学校教員16名(5月)
- 視察
 - シンガポール訪日代表团(6月)
 - 帯広市副市長、帯広畜産大学学長、(株)太平洋シルバーサービス社長等計13名(8月)
 - 日本青年国際交流機構(IYEO)日本ASEAN学生会議代表团30名(12月)
 - 長岡市教育委員会子ども家庭課係長他2名(2月)
 - 帯広畜産大学教授(3月)

⑥ 25年度活動検討

- 器械体操、マット運動の強化。チアダンスを取り入れ表現力の向上を図った。器械体操、マット運動は日常の乗馬教室、チアダンスは、土曜学習(日常事業)の中で、3・4年生を対象にして実施。キッズフェスタ、子ども祭り、クリスマス音楽会のイベントで発表披露。
今後の課題は、職員の指導レベルを上げ子ども達の興味・関心を引けるようにする。今後は、サッカーのリフティングを取り入れた、新しいダンス種目の開発を目指す。
- 大縄跳び競技「ロープジャンプ」の取り組み
1学期の土曜学習で3・4年生を対象に実施。数回練習を行うが、形になる前に終了。練習方法の勉強不足により、発表出来る機会を設けることができなかった。大会への参加、ポニースクール内での競技会の実施を検討する。
- モンゴル語・ドイツ語に親しむ機会を増やした。
モンゴル語・ドイツ語は、乗馬教室終了後一日一語ずつ紙に書いて発音練習・意味の確認を行った。モンゴル語は約1ヶ月、ドイツ語は約3ヶ月実施した。
- ドイツスタイルの軽乗技の開発、習得
軽乗担当職員が、行事毎にドイツ式軽乗を取り入れながら演技構成を考えた。

○利用状況

年度	引き馬	教室 (健全児)	教室 (障害児)	団体 (健全児)	団体 (障害児)	ボラン ティア	計
23	12,717	33,065	2,260	2,129	3,154	201	53,526
24	10,433	37,523	1,850	2,310	3,017	178	55,311
25	8,764	36,749	1,692	2,293	1,970	155	51,623

ハ) 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場

○概況

指定管理者として5年目の今年度、夏の酷暑、2月の大雪などの影響を受けつつも小動物ふれあいの人気は高く、利用者数は昨年度を上回った。リスザルの繁殖に成功し、そのことがTVK「ありがとッ!」、神奈川新聞、朝日新聞で紹介され、期間限定の公開展示、名前の一般公募などで広場を賑わした。

新規提案事業の開拓を目的に、月1～2回のペースで大人の乗馬、動物との写真撮影会などの特別プログラムを実施(今年度20回)した。いずれも好評で、利用者に新たな動物広場の楽しみ方を提供できた。

25年度最大の懸案であった指定管理者のエントリーについては、8月の申請書提出、10月の提案説明会、12月の議会議決を経て指名を受けるにいたった。

○各種プログラム

- | | | |
|----------------|---------------|-----------------|
| 1.ポニー教室 | 2.小動物とのふれあい | 3.身近に感じられる動物の展示 |
| 4.障害児ポニー教室の開催 | 5.こども動物クラブの運営 | |
| 【以下、指定管理者提案事業】 | | |
| 6.ポニーボランティア活動 | 7.出張動物教室 | 8.親子ポニー教室 |
| 9.親子引き馬 | 10.ポニーキャンプ | 11.羊毛クラフト |

【以下、特別プログラム】

- | | | |
|---|---------------|------------|
| 12.雨天特別プログラム(ハツカネズミの抱っこ、動物広場の裏側見学など) | | |
| 13.大人のポニー乗馬(母の日、父の日、七夕、クリスマス、成人の日、バレンタインなど) | | |
| 14.動物との記念撮影会 | 15.動物へのエサやり体験 | 16.羊の毛刈り体験 |

○取材

仔リスザルの誕生記事新聞掲載をはじめ、「るるぶ」「まっぷる」「あんふあん」などの遊び場紹介誌に多数掲載。

○利用状況

年度	ポニー乗馬	ふれあいコーナー	入場者	動物クラブ	ポニー教室	障害児乗馬	ポニーボランティア	親子引き馬
23	95,090	165,450	542,090	1,512	515	319	1,629	3,321
24	95,529	184,157	580,470	1,496	568	353	1,814	4,393
25	88,345	185,131	564,730	1,416	524	374	1,696	4,178

○今後の展望

ハーモニセンター随一の規模、動員力の相模原麻溝公園動物広場は、改めて指定管理者の指名を受けた平成26年度、これまで以上に来場される方の「こんな体験をしたい」「こんなサービスがほしい」「こんな場所であってほしい」に応える活動を柱にし、幼児から高齢者まで「いつ行っても気持ちのいい場所」を目指さなければならない。また、子ども達の大切な居場所としての認識を強く持ち、「子ども動物クラブ」、「ポニーボランティア」活動もより充実させていく。

ニ) 万騎が原ちびっこ動物園

○右肩上がりの利用者数

2月の大雪の影響で東日本の同種の施設は軒並み利用者数を減らしている中、昨年以上の利用者数となった(ちなみに本園の野毛山動物園は10万人程度の減少)。

無料施設であることの利用しやすさを差し引いても年々利用者が増大している理由は、口コミによる人気の向上が影響していると分析する。

いつ行っても気持ちよく迎えてくれる職員、常にきれいな園内、健康状態の良さを確認でき、思わず触りたくなる清潔感をもつ動物たち、いずれもハーモニセンターが同園を預かった当初から目標としてきた事柄が花開いての数字と考えられる。確かなノウハウに基づいた繁殖によって動物数も増大し、来場者の楽しみを増やしている。

○ 職員の離脱とそのフォロー

10月に怪我によってやむを得ず職員が一名退職した。

その後、相模原、目黒事業所から補充支援を行った。加えて同園配属スタッフとアルバイトスタッフのチームワークで以前と変わらない事業体制を整えることができた。

○ 職員研修

8月、瀬戸川スタッフをモンゴル大草原騎馬トレッキング事業に引率者として派遣

○ 利用状況

年度	入園者数
23	128,593
24	165,352
25	174,078

ホ) 板橋区こども動物園本園、高島平分園、昆虫公園

25年度で丸5年を終えた。ハーモニセンターが委託を受けてからの一番多い入園者数を記録した。

毎年実施している親子祭りは1万人超えの人数になり、来園者の整理・安全対策等の検討が次年度の課題となった。

利用者数について モルモット抱っこは増員ではあるが、引き馬は減少している。雨による馬場の水浸しなど、馬場不良により引き馬ができない状態が多くあった。馬場改修の話も区役所担当課との間で進めている。

出張ふれあいは、「小学校生活科の授業に」と4校から依頼があり、ポニーを使った出張ふれあいを予定通り行うことができた。

26年2月の馬車事業の際に、馬が暴走し事故を起こした。幸い怪我人は出ずに済んだが、改めて若手スタッフの馬に対する知識・技術の習得、安全管理に対する考えなどを構築する必要性が感じられた。

○ 本園利用者数

年	モルモット抱っこ一般	モルモット抱っこ団体	ポニー一般	ポニー団体	エサやり	動物クラブ	馬車	出張ふれあい	一般入園者	団体入園者	入園者数一般・団体計
23	59,444		19,136	446	30,170	2,095	600	1,250	271,191	7,528	278,719
24	57,151	3,267	21,067	463	46,883	2,407	600	1,335	282,420	11,978	294,398
25	61,439	3,580	19,764	526	52,056	1,386	970	2,085	319,744	6,714	326,458

○ 分園利用者数

年	モルモット抱っこ一般	モルモット抱っこ団体	引き馬	えさやり	動物クラブ	一般入園者	団体入園者	入園者数(一般・団体計)
23	28,135		749	11,646	1,215	73,934	5,709	79,743
24	28,295		590	18,281	1,252	85,069	5,610	90,679
25	32,792	3,397	462	21,889	1,254	96,835	4,555	101,390

○ 昆虫公園利用者数

年	一般入園者	団体入園者	入園者数(一般・団体計)
23	4,582		
24	7,728		
25	7,885	361	8,246

蝶の幼虫提供プログラム8校

昆虫標本教室全5回	昆虫ガイドツアー全9回	冬のワクワクプログラム全5回
10名	148名	13名

へ) 上千葉砂原公園ふれあい動物広場

- 平成25年10月より新たに3年間の業務委託が決まった。
 契約更新に伴い、職員を6名から7名に増員。
 看板等の作り換えや、園路の高圧洗浄を実施した。

年	引き馬	ふれあい	入園者	動物愛護クラブ
23	42,768	54,159	195,098	403
24	46,866	55,272	205,422	434
25	44,600	53,439	200,683	313

○ ポニー教室

回	日程	参加者数
第1回	(5月12日～の5日間)	延、23名参加
第2回	(6月23日～の5日間)	延、39名参加
第3回	(2月2日～の5日間)	延、44名参加

○ 課題と将来展望

現状の上千葉の委託形態では「仕様書通り」の運営が求められているため、すぐにハーモニセンターの意向で新たなプログラムを展開することなどは望みにくいが、与えられた条件の中でも、しっかりとしたアイデアとプランを練っておけば、求められたときに適切な提案ができる。上千葉に限らず、その為の研究をしていくことも大事だと考えられる。

ト) 海老名ふれあい動物施設

○ 来場人数

年度	利用者			来場者		総来場者
	引き馬	馬車	移動ふれあい教室 (小動物とジョイント)	一般	派遣	
24	7,754	4,851	6,674	16,535	4,588	21,123
25	8,046	9,832	7,231	25,435	4,765	30,200

○ 海老名市の代表とも呼べる存在

昨年度に比べ、来場者、利用者が共に増加した。市のホームページ、広報、タウンニュース、神奈川新聞などでの告知や報告、2頭のポニーが度々写真で取り上げられたことが効果をもたらせた要因の一つとなった。その事で認知度がさらに上がり、来場者数の増加につながった。ふれあい動物施設のある運動公園に行く理由が、「ポニーがいるから、チョコ・エビーとミルク・ビーナがいるから」という声も少なくない。「以前は違う場所でポニーに乗っていたが、今は海老名が楽しいから」とリピーターになる方も多い。幼児から高齢者のどの層にも選ばれる場所となった。

○ 新たな派遣業務

今年度新たに知的障害者通所施設や心身障害児通所施設、身体・知的障害者通所施設への派遣業務が加わった。複数回派遣依頼があり、ポニー体験者の数も回数を重ねる毎にふえた。

今後も施設の各イベントに招きたいとの意向をいただいている。また、施設の園生が運動公園に出むき、ポニー体験を行う事業も計画中であり、現在協議を重ねている。

○ 特別プログラム・ポニー教室、親子ポニー教室

今年度は海老名市所有の2頭のポニーの調教の一環として、相模原からポニーを1頭追加した。このことによりプログラム内容の充実、増加する利用者への対応、教室時の引き馬・馬車運行の併用が可能となった。

春休みの親子教室は定員以上の応募人数だったが抽選を行わず、全組受け入れ開催した。これまでの教室経験者や教室経験者を兄妹に持つ参加者が多く（リピーター）、この教室の人気と期待感の大きさを実感した。

時 期	回 数	参加者数
夏休み	10回	104名
冬休み	5回	43名
春休み	8回	52組（親子）

5. 青少年の国際交流の実施

(イ) プロジェクトM

① モンゴル大草原乗馬を楽しむ旅

各コース7泊8日、3コースを実施。午前2時間、午後2時間半、一日30km前後の乗馬を体験。初心者から経験者まで、乗馬力に応じて、ゆっくり過ごす人、日本では味わえない直線の長い駆歩を満喫する人など様々。初心者でも最終日にはほとんどが駆歩ができるように上達した。

この他、馬で往復する遠乗りを兼ね、遊牧民宅を1泊訪問。ゲルの生活、遊牧民家族との交流を行った。

5年目となる「ナーダム子ども競馬・遊牧民生活体験コース」がN4コースに併設され、7人(小4～小6)が参加。4泊の遊牧民生活を通して、競馬の手ほどきを受け、往復30kmの競馬に挑戦。50数頭のうち上位は6位、9位、11位と健闘した。

○ 参加者数

コース名(日程)	参加者数
N1コース(7/16～23)	中止
N2コース(7/23～30)	中止
N3・K3(7/30～8/6)	15人 引率1人
N4・K4(8/6～13)	13人 引率2人
N5・K5(8/13～20)	17人 引率2人

* (N：成田発着 K：関空発着)

② モンゴル文化教育大学創立20周年記念行事

「乗馬を楽しむ旅」N3コースにあわせて行われ、政府関係者、地元関係者、旧職員、卒業生、大学間交流先の桜美林大学関係者ら80名が出席し、祝賀会、コンサート、講演会が開かれた。

また、この祝賀会の場において、大野重男前理事長が「これまでの長年にわたるウランバートル市の文化教育事業に貢献した功績」の表彰を受け、「ウランバートル市の名誉市民」の認証を受け、トムロオチル氏(元モンゴル国国会議長)より、記念の勲章が授与された。

10月13日(日)には、茨城県土浦市の会場でも地元土浦の支援者らの助力を得、モンゴル駐日大使、桜美林大学の関係者、モンゴルから来日の大学関係者ら100名が出席し、創立20周年の記念フォーラム、コンサート、祝賀会が行われた。

③ モンゴル大草原遊牧民生活体験留学

体験参加希望者がなく、中止。

④ 馬頭琴教室

ハスロー講師の指導の下、取手市(藤代)の小貝川生き生きクラブにおいて、毎回8～10人の参加者で月2回のレッスンを行った。

小貝川フラワーカナル(取手市・5月)、国際交流協会主催モンゴル大使講演会での懇親会(守谷市・6月)モンゴル文化教育大20周年行事(土浦市・10月)のイベントに参加し、演奏を披露。成果を発表し、普及に貢献した。

(ロ) 日独青少年相互交流計画2013

① 派遣 (夏)

日 程	平成25年8月17日～28日
参加者数	日本 10名 (引率1名含) ドイツ 15名
活動内容	1. ホームステイプログラム 3泊 2. 研修プログラム 学校訪問 (ギムナジウム) 授業体験 6カ国交流プログラム 3. 体験プログラム カヌーによる川下り体験、農場見学 ドイツ人アーティストとの交流 砦見学 (中世代前期、中世代後期) 中世ドイツの暮らしを再現した博物館見学 ミュンスター・ブレーメン見学

○ 総括

参加者全員が高校生・大学生と若く、EU圏に行くのが初めてというフレッシュな顔ぶれのため、座学的なプログラムは少なめに、大半をドイツ受入れメンバーとの交流に費やした。ミュンスター、ブレーメンの観光やカヌー川下り体験、学校訪問等で常に日本人と同数かそれ以上の人数が同行し、一般的な観光旅行や他の研修旅行とは違った体験ができた。

② 受け入れ (秋)

日 程	平成25年10月21日～11月4日 (10月25日～30日は宮城県大崎市に滞在)
参加者数	ドイツ側13名 (参加者12、引率1)、日本側45名 (スタッフ6名、ボランティア39名)
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・見学 (自由学園訪問、江戸東京博物館、大内宿、明治神宮等) ・青少年交流 (スポーツ大会、ハロウィンパーティ) ・鎌倉散策 ・自由行動 (原宿、渋谷等)

○ 総括

今年度からドイツ側の参加者が18歳以上から16歳以上と、年齢の幅が下に広がったこともあり、ドイツ側希望による自由行動が原宿、渋谷となる。スポーツ大会、ハロウィンパーティなどプログラムも若返った。日本の受け入れ側もドイツでの交流に参加したメンバーを中心に過去最多数のカウンセラーが参加し、若者同士の交流が活発に行われた。カウンセラーにとっても違った価値観の人とふれあうことで積極性、多角的な物事の見方、ホスピタリティを強く養える機会となった。

○ 今後の展望

スタッフ主体ではなく若者同士（カウンセラーとドイツの青年）がより深く関われる事業にしていきたい。そのためにカウンセラー主催の大人数が関われるスポーツ大会で参加枠を広げ、一対一で関わるプログラムなど学生一人一人がアイデアを出し、深く関われるプログラム展開をしていきたい。また、派遣事業にも関心を持たせ、日独交流に愛着のあるカウンセラーを育成。同時に、広場の若手スタッフの研修の場としても活用していきたい。

③ 派遣（春）

2012年に続いて第2回目の実施。現地シュタインフルト郡ラドベルゲン乗馬クラブと、ライディングファームの協力で、「軽乗（Aコース）」と「乗馬（Bコース）」に分かれ、軽乗と障害飛越練習を中心としたドイツの馬の文化に学ぶ体験型交流が行われた。

そのほか、地元中学校訪問交流、2泊のホームステイ、歓迎交流会、町長表敬訪問、サイクリング、日帰りブレーメン、ミュンスターの観光、散策、ショッピング。元ヨーロッパチャンピオン軽乗チームが特別出演した「馬のイベント」。なかでも日本の中高校生5人がドイツの選手と混合でチームを組んでの軽乗演技は、大きな賞賛を浴びた。

この交流を通じて「軽乗」に対する一層の技術の向上、意識の高揚を持ち帰ることができた。また日本とドイツにおける「乗馬」に対する心構え、意識の文化違い（差）といった学びを得ることができた。

日 程	平成26年3月26日～4月4日（9泊10日）
参加者数	Aコース（子ども軽乗コース）：20人（小5～高2） Bコース（一般乗馬コース）：9人（中2～80才） 引率 2人 通訳 1人 総勢32人

6. 青少年指導者の育成

① キャンプカウンセラー募集

カウンセラーの募集は昨年度と同様にホームページを中心に行った。大学生のライフスタイルに合わせ、小規模説明会を4～6月の間に8回実施。加えて麻布大学（9名登録）、日本大学（10名登録）、恵泉女学園（6名登録）での訪問説明会を実施。

また、動物専門学校の日本ペット&アニマル専門学校（23名登録）での訪問説明会も実施した。

○インターネット募集情報掲載：ボランティアプラットフォーム、Yahoo ボランティア

○新大学1年生（元キャンプ参加者）へのお誘いダイレクトメール発送（262通）

○大学・専門学校募集ポスター掲示 40校掲示依頼→40校掲示承諾

② 活動カウンセラー数（26年3月時点）

継続登録者数	新登録者数	合計
95	80	175

③ カウンセラー育成研修会実施概況

実施形態	実施事業数	泊数	参加数
宿泊	7	19	78
日帰り	1	0	6
合計	8	19	84

○ 総評

夏前の研修に多くのカウンセラーが参加し、実際にキャンプを実施する蓼科ポニー牧場で乗馬を体験したことで、夏キャンプでの子ども達の乗馬指導に役立てることが出来た。一方、冬前、春前のカウンセラー研修は参加者が少なく、カウンセラーのレベルアップが出来ず、冬、春キャンプでの子ども達の乗馬指導に生かせなかった。たくさんのカウンセラーに意義を伝え参加を促し、長期キャンプでの子ども達のプログラムの質を高めて行きたい。

また、冬のスキー研修ではインストラクターを招いた研修を実施した。自らのレベルアップはもちろん、子どもへの指導法も学び、実践的な研修となった。春の研修では実際にキャンプを実施しているヤマボク、ロッジカナディアンで5年ぶりに実施。様々なゲレンデを滑れたことで、キャンプの講習の幅が広がっただけでなく、キャンプに関わる方々と関係性を築ける良い機会となった。

○ 課題、将来展望

- ・キャンプ団体同士でボランティアリーダーの奪い合いの傾向がみられることから、教育系の大学や専門学校での説明会を増やし、質の高いカウンセラーの確保を図りたい。
- ・研修のレポートリーが少なく参加者が減ってきている。引率スタッフがスキルアップし、様々な研修を実施すると共にスタッフ、カウンセラー共に他団体とのジョイント等、積極的に新しい研修活動も増やしていきたい。
(来年度はSAN (Social Active Network of outdoor education : 野外教育に携わる団体の中堅スタッフによる任意団体) での他団体との交流事業も計画中)
- ・リスクマネジメントがキーワードとなる昨今の対策として、カウンセラーに消防の救命講習等の資格等を取らせることでスキルアップと共に団体の信用度アップをしていく。

④ 職員研修

○ 主催

新人職員対象接遇研修 (外部講師招聘)、エピペン (アナフィラキシー補助治療剤) 使用講習会 (外部講師招聘) 乗馬講習会を実施した。

○ 外部研修

国立青少年教育振興機構他、他団体・組織が主催する研修会にのべ36名が参加した。
(全21回。指導者関連7回、ポニー・動物飼育管理関連7回、救急救命・安全管理関連7回)

7. 機関紙および資料等の発行

① 機関紙から季刊誌へ

公益財団法人への移行に伴い、広報全般も見直し・再出発と位置付けた1年だった。

従来のタブロイド版機関紙発行を6月号で終了し、7月号から新たに季刊誌としてスタートする予定が、会員制度の確定を待ち、発行を見送った。

冬休みキャンプ参加者の募集に向けては、機関紙に代わるものとして告知チラシを作成し、配布した（郵送及び碑文谷・相模原・小貝川、イベントで配布）。

同時に、すでにHPで告知していたものの反響の少なかった親子祭りの告知も同封したところ、申し込みが増えたことにより、紙媒体の重要性・必要性和時にHPで確認して申し込む、という参加者側の動きも再確認できた。

その後、春キャンプの募集に合わせてキャンプレター「Campal」を創刊。キャンプの問い合わせに的確に説明できる資料としても役立ったが、会員向けのキャンプレターという位置づけのため、今後会員規模が大きくなるまでは季刊誌と合体させて発行していく。

当面、長期キャンプ募集のタイミングに合わせて季刊誌を発行、時期的に告知からずれるキャンプについてはチラシで対応、という二段構えで上媒体での情報発信をしてゆく。

② パンフレットの作成

会員制度決定後に団体紹介パンフレットを10,000部作成。6,700部を旧会員制度での会員及び協力者・関係団体に発送し、残りは各事業所・事務局での配布用として使用することとした（2年分）。

WEBについては、従来のホームページ（以下、HP）をキャンプHPとし、団体紹介や会員制度などの部分を充実させた新しいHPを開設した。同時に新しいドメインを取得し、ドメインを見て非営利組織とわかるものに変更した。

キャンプHPについては、年内にキャンプページも新しいHPに組み込むよう準備を進めている。一方HPだけでなく、フェイスブック（以下、FB）での情報発信も積極的に行った。HPやブログに載せるまでのことではないちょっとした動きをリアルタイムで、まめに発信するようにしたところ、ページへの「いいね」数も少しずつ増加、「ゆるいつながり」を楽しんでいる声が聞かれるようになった。

検索やロコミをきっかけに、最初に出会う「ハーモニセンター」がWEB上である人が圧倒的に多いこの時代では、WEBでの発信が重要であると考えられる。今後も、「もう少し見たい」「続きが気になる」と思わせるようなページ作り・情報発信を心掛けて更新してゆく。

8. その他

① 会員制度

旧制度停止から1年以上のブランクを経て、2014年1月1日より新会員制度が始動。当初なかなか伸びなかった会員数だが、春キャンプを境にキャンプ参加者のほとんどが入会した。一方、キャンプに参加しないご家庭、古くからの応援者であった方々の入会がないのが現状である。

キャンプに送り出す子どものいなくなった家庭に、継続して賛助会員として活動を支えていただけたかどうか会員数増加の大きなポイントとなる。今後は理念の啓蒙だけでなく、活動の教育効果の可視化に力を入れることも必要と考えられる。

② 会議

【理事会・評議員会】

- 第1回理事会（4/13）

平成25年度事業計画案について

- 第2回理事会（6／1）
 1. 平成24年度事業報告案・収支決算案の承認について
 2. 職務権限規程の承認について
 3. 理事会運営規則の承認について
 4. 外国人技能実習生の受け入れについて
 5. 賛助会員制度について
- 第1回評議員会
 1. 評議員会運営規則の承認について
 2. 平成24年度事業報告案・収支決算案の承認について
 3. 理事及び監事の報酬等の額について
- 第3回理事会（10／5）
 1. 賛助会員制度改定案の承認について
 2. 組織図案の承認について
- 第4回理事会（2／22）
 1. 平成26年度事業計画案、収支予算案について
 2. 平成26年度評議員会開催について
 3. 平成26年度職員配置について
 4. 決裁と稟議について
 5. クレジット決済について
 6. 理事会への議案上程について

【職員】

- 事業部会（5／7）
 1. 平成25年度事業計画書重点項目の具体化について
 2. 夏季事業、秋季事業担当者決定
- 事業部会（7／1）
 1. 各事業所からの報告
 2. 夏の人員配置について
 3. 前理事長引退式について
 4. 安全対策マニュアルの改訂について
- 事業部会（10／8）
 1. 夏季事業（9月の長岡派遣を含む）報告
 2. 新年互礼会について
 3. 河川騎馬パトロールについて
 4. 秋の東北支援事業について
 5. 新会員制度について
 6. 安全管理について
- 施設長会議（12／16）
 平成25年度進捗状況報告と平成26年度事業計画案検討
- 事業部会（2／18）
 1. 職員育成へのコーチング導入について
 2. 蓼科でのスタッフ研修について